

(二〇一七年度)

8 国 語 問 題 (九〇分)

(この問題冊子は18ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、マーク式の解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、記述式の解答は、各解答欄に「いねいに記入すること」。
- 八、訂正する場合は、消しゴムで「いねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと」。
- 九、解答用紙を折り曲げたり、破つたりしてはならない。
- 十、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十一、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十二、問題冊子は必ず持ち帰ること。

—
次の文章を読んで、後の間に答えよ。

石川淳と坂口安吾とを同列にならべて、たとえば新戯作派だとか無頼派だとかいったレッテルを貼りつけるやり方は、すでに戦後も三十年を経過した今日、まったく無意味になってしまったと私には思われる。現在の石川淳には、どこにも無頼派らしいところは見られない。いや、織田作之助も大宰治も坂口安吾もすでになく、社会の経済的基盤が完全に変質してしまった現在、無頼派などというものは日本文壇に存在しえなくなつたのだ。そして存在しえない過去の名称を、げんに生きて仕事をしている作家に貼りつけることの不当は、¹ 1 を俟たぬであらう。

なるほど、坂口安吾はまだ戦後の狂瀾怒濤の完全には終っていない時期に、文学的にも生活的にも捨身の破滅的な行動を演じて、あわただしく死んでいった。安吾は最後まで、外部から人間の行動を規制してくる、あらゆる文化的な価値としての形式の支配に対して、² カカ^アンな捨身の抵抗を示したように思われる。一言をもつてすれば、彼はあらゆる形式の破壊に一生を賭け、ついにその文学も中途半端のまま、その生活さえも破壊してしまつたような趣きがあつた。

しかし石川淳の生き方はちがつていた。より巧智であつたといつてもよい。文学的にも生活的にも、淳は安吾と同じ基盤に立ちながら、なおかつ生きのびるための方法を模索したのである。ここで私が用いた「² 生きのびる」という表現は、もちろん一つの比喩である。そういえば、安吾はもつとも有効な修辞学上の武器であるべき、この比喩というものにも徹底的に無縁であつた。安吾のいわゆる説話(福田恆存の表現)には、石川淳の短篇におけるような、形而上学に向つてひらかれるべき視覚が欠けていた。

私には、坂口安吾が³ 孜々としてあらゆる形式をぶちこわすのに対して、石川淳がひたすら方法を模索するといったような意味で、この二人の昭和十年代に出發した作家の関係を、ダイスムとシユルレアリスムの関係として捉えてみたいような気がしないでもない。本人が実際に影響を受けたかどうかはともかくとして、安吾の初期作品『木枯の酒倉から』や『風博士』には、たしかに日本的なダダの味わいがあるし、淳の『山桜』から戦後風俗を素材とした数々の幻想的短篇、あるいは『鷹』から『虹』に

いたる中篇には、明らかに超現実主義風の味わいが読みとれるであろう。しかし、私が強調したいのは必ずしもそのことではない。むしろ私は、生き方や倫理の問題に重点を置いて言っているのである。周知のように、フランス本国のダダやシュルレアリスムも、単に美学上の変革ではなく、より大きく生き方に係わる場所のものであった。

「反芸術といふことも、作品を事件と見ることも、ことばはいろいろだらうが、今はじまつたことではなかつた。近いために、第一次大戦のあとにダダがおこつてゐる。今さらダダの説明でもあるまい。当時わたしはまだ年少、仕事にもなんにも、芸術の現場から遠いところにふらふらしてゐたが、しかしピカピヤは気に入らないものではなかつた。わたしは精神……とまではいいはない、青二才の生活感情に於ていくぶんはダダのほうに傾斜しかつたやうなおほえがある。」

右は石川淳の興味ぶかい回想（『夷齋遊戯』より）である。この言葉につづけて、「それでも、ダダの波のあとに置きざりをつくた貝殻のかけらになつたやうなおほえはない」と淳はつけ加えている。これは私流の言葉に翻訳すれば、⁴気楽な形式からの逸脱に安住せず、観念と形式のスリリングな追いかけて、つまりは絶えざる方法の模索によつて、ダダの波を乗り切つたということの意味する。観念のみが突つ走り、やみくもに形式をぶちこわそうとする安吾にくらべて、淳がより巧智であつたと私が前に書いたのも、この意味にはかならない。

名高い『日本文化私観』における断定によれば、⁵「必要性がすべてに優先する」という一種の実用主義哲学を堅持していた安吾にとつて、その散文は、どうしても無定形のなかに突入してゆくほかほかではなかつた。安吾は散文から一切の形式をはぎとり、その純粹な内容を提示することができると考へた。

ところで、石川淳によれば、⁶文章の内容とは「そこに持続された精神の努力の量であり、形式とはその努力の言葉に於ける作用」（『文學大概』）である。淳においては、内容と形式はいつもスリリングな追いかけてをしているのである。コミユニズムにおいてさえ、形式を離れた思想の純粹な内容などというものは、彼にとつてはありえなかつたのである。

しかし安吾の独特な合理主義あるいは実用主義の弱点をあげつらうのは、むしろ容易である。小林秀雄との対談で、小林が持ち出した「規矩」という概念を、ほとんど理解することができなかつたか、あるいは理解することを頑強に拒否していたの

が安吾という度⁷しがたい人間であった。それでも、安吾の論理がいかに支離滅裂であつても、その一途^イな願望が、必ずしも私たちに感得できないものではないかぎり、その文学は生きていって差支^{さしか}えないのである。『白痴』や『紫大納言』や『夜長姫と耳男』などは、彼の評論におけるセンバク^ウな形式否定の論理を裏切つて、石川淳の表現によれば「部分と全体とをくめるめて」光り輝いているのだ。

ここで私が思い出さざるをえないのは、おそらく戦後三十年間に輩出したわが国の批評家のなかで、石川淳および坂口安吾に対するもつとも良き理解者であり、同時に、その仕事の性質が彼ら二先輩のそれを正統に引き継ぐものと思われる、花田清輝の例によつて例のごとき卓抜な評言である。

花田は「スカラベ・サクレ」というエッセーのなかで、林達夫の「異常な好意と尽力」(著者の後記)によつて出版されたという中橋一夫の名著『道化の宿命』に拠りながら、「荷風・淳・安吾の系列は、わたしに、シエークスピアの芝居に登場する道化の三つの型——辛辣^{ピター・フル}な道化、悪賢^{スライ・フル}い道化、愚鈍^{ドライ・フル}な道化を連想させる」と述べ、荷風を辛辣^{しんらう}な道化に、淳を悪賢^{あくけん}い道化に、そして安吾を愚鈍^{ぐどん}な道化に、それぞれ当てはめているのである。しかも花田は、一般に見られる道化の進化のコースを逆転させて、「たとえば、荷風の『花火』におけるおもわせぶりなプロテストが、淳の『曾呂利咄』^{そろりばなし}における手のこんだ諷刺^{ふうし}に変わり、最後に安吾の滑稽小説のたぐいにおける痴呆^{ちがい}的な笑いと化した、とみればみれないこともないではないか」という、彼一流の弁証法的な、目のさめるようなギャクセツ^エを吐いているのだ。

⁹ このエッセーにおける花田清輝のねらいは、いうまでもなく、愚鈍な道化たる坂口安吾の名誉回復である。私は前に、安吾と淳との関係を、ダダからシュルレアリスムへの進化のコースによつて捉えたが、花田流の弁証法にしたがえば、むしろ、このコースも逆転され、どちらかといえばダダの真価が強調されることになるにちがいない。それはそれで一向に差支えないし、私としても、べつだん、淳と安吾の進化における優劣を論じるというがごとき、愚かしい意図は最初からなかったのだということを強調しておかねばならぬ。花田の意図も、おそらく私と同様であるう。

悪賢い道化たることを自覚している石川淳は、次のように書いている。

「どうも日本の芸術家諸君はのべつにマッチをすつて思想のたばこを燃してゐるくせに、自分が信じてゐるわけでもなさうな『永遠の秩序』には、たつた一本のマッチをすら惜しんで、火をつけてこれを燃さうとしないほどケチンボで無精のやうに見える。たぶんオトナといふものだらう。」

この点から見ると、坂口安吾は明らかにコドモだつたといふことができよう。安吾は火遊びの好きなコドモのように、マッチを惜しまず「永遠の秩序」を燃そうと躍起になつていた。その論理は支離滅裂、とても「思想のたばこ」を燃しているとはいえず、たしかに愚鈍な道化と呼ばれるにふさわしかった。しかし安吾の魅力は、繰り返していうならば、このコドモ性にこそあるのである。

(澁澤龍彦「石川淳と坂口安吾 あるいは道化の宿命について」)

〔注〕ダダイスム：既成の価値観を否定し、芸術の自由な表現を目指した芸術運動。

シュルレアリスム：非合理的な潜在意識を表現することで、人間の全的解放を目指した芸術運動。超現実主義。

ピカビヤ：フランスの画家（一八七九—一九五三）。ダダの運動に参加した。

問一 傍線部Iはどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 言うののためらいを覚えるであろう。
- b 言う必要はないであろう。
- c 時代錯誤と言うべきであろう。
- d 見当はずれであろう。

問二 傍線部2について、「一つの比喩」とはどういうことの比喩か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 文化的な価値としての形式の支配を打破し、自らの観念を伸長させること。
- b 戦後の狂瀾怒濤に命がけの抵抗をし、時代を突き抜けた倫理を打ち立てること。
- c 文学的にも生活の上でも巧智にふるまい、時代に左右されない文学を形成すること。
- d 小説における観念と形式の関係について模索し、ダダイスムを乗りこえること。

問三 傍線部3について、この表現の特性を説明したものととして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 「孜孜」と「ぶちこわす」という同じ方向性をもつ言葉の使用によって、破壊行為が強化された表現となっている。
- b 「ぶちこわす」という言葉に「孜孜」という言葉を加えることによって、「こわす」行為に怒りが込められていることを示す表現となっている。

- c 「孜孜」と「ぶちこわす」という相反するイメージの言葉を使用することによって、ユーモラスな表現となっている。
- d 「ぶちこわす」という言葉に「孜孜」という言葉を配置することによって、「こわす」行為が本心から出ているものではないニュアンスを帯びた表現となっている。

問四 傍線部4「気楽な形式からの逸脱」とは何を指しているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 美学上の変革
- b 実用主義哲学
- c ダダイスム
- d シュルレアリスム

問五 傍線部5について、安吾が「どうしても無定形のなかに突入してゆくほかはなかった」のはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 安吾にとって必要なのは内容であり、その内容は形式をもたない無定形のものであるから。
- b 安吾が重視する必要性は具体的なものであるので、それを表現するには無定形という形式を要求するから。
- c 安吾は純粋な内容を表現するには無定形がよいと考え、形式の価値を軽視したから。
- d 安吾にとって形式は抽象的なものであり、持続的な精神を提示するには適合しなかったから。

問六 傍線部6はどのようなことを言っているのか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 文章の内容は形式とのスリリングなせめぎ合いで形成されるものであり、内容と形式は互いに補い合っていること。
- b 作者の精神の持続の量と文章の内容の質は比例しており、それが形式の優劣を決定すること。
- c 文章の内容は作者が精神の努力をしないかぎり形成されず、形式は作品の形成には有効な力とはなりえないこと。
- d 作者の精神の努力の量は文章の内容と等価であり、その努力が言葉に外化して形式が生まれること。

問七 傍線部7について、筆者が安吾を「度しがたい人間であった」と言うのはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 小林秀雄の「規矩」という概念と無関係の世界にいたると思ったから。
- b 実用主義を通すために小林秀雄の「規矩」という概念を排除したと思ったから。
- c 小林秀雄の「規矩」という概念に対して理解を示さなかったと思ったから。
- d 論理が支離滅裂であって小林秀雄の「規矩」という概念に反論することができなかったと思ったから。

問八 傍線部8について、筆者の言う「一般に見られる道化の進化のコース」の説明としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a まず愚鈍な道化が起こり、それがその後悪賢い道化と辛辣な道化とに分化する。
- b まず愚鈍な道化が起こり、次に悪賢い道化、さらに辛辣な道化が起こる。
- c まず辛辣な道化が起こり、それがその後悪賢い道化と愚鈍な道化とに分化する。
- d まず辛辣な道化が起こり、次に悪賢い道化、さらに愚鈍な道化が起こる。

問九 二重傍線部A「小林秀雄」の著作を、次の中から一つ選べ。

- a 風俗小説論
- b 墮落論
- c 敗北の文学
- d 芸術と実生活
- e 様々なる意匠

問十 二重傍線部B「荷風」が中心となって創刊した文芸雑誌を、次の中から一つ選べ。

- a 文学界
- b 三田文学
- c スバル
- d 新思潮
- e 白樺

問十一 傍線部9について、「坂口安吾の名誉回復」とはどういうことか。説明せよ。

問十二 傍線部10について、筆者の言う「ロドモ性」とはどういうことか。説明せよ。

問十三 波線部ア、イについて、漢字はその読み方を、カタカナはその漢字を、それぞれ記せ。

二

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「皇后宮、上東門院、いづれか今少しめでたくおはしましける」と言へば、「皇后宮、御みめもうつくしうおはしましけるこそ。院も、いと御志深くおはしましける。失せさせ給ふとて、

A 知る人もなき別れ路に今はとて心細くも思ひ立つかな

B 夜もすがら契りしことを忘れずは恋ひむ涙の色ぞゆかしき

など詠ませ給ふらむこそ、あはれに侍れ。のちに御覽じけむ帝の御心地、まことにいかばかりかはあはれにおほしめされけむ。さて御わざの夜、雪の降りければ、

C 野辺までに心ひとつは通へども我がみゆきとは知らずやあるらむ

と詠ませ給へりけむも、いとこそめでたけれ。おはしまさぬ後まで、さばかりの御身に、御目も合はずおほしめし明かしけむほどなども、返す返すもめでたし。

また中関白殿隠れさせ給ひ、また内大臣流されなどして、御世の中衰へさせ給ひてのち、かすかに心細くておはしましけるに、頭中将それがし参りて、簾のそば、風に吹き上げたるより見給ひければ、いたく若き女房の清げなる、七八人ばかり、色々の単襲、裳、唐衣などもあざやかにてさぶらひけるも、いと思はずに、今は何ばかりをかしきこともあらじと思ひあなづりけるも、あさましくおほえけるに、庭草は青く茂りわたりて侍りければ、『などかくは。これをこそ払はせておはしまさめ』と聞こえ給ひても、宰相の君となむ聞こえける人、『露置かせて御覽せむとて』といらへけむこそは、なほ古りがたくいみじくおほえさせ給へ。

上東門院の御事は、よし悪しなど聞こゆべきにもあらず。何事もめでたきためしにはまづ引かれさせ給ふ時なれば、とかく申すに及ばず。何事も御幸ひ極めさせ給ふあまりに、御命さへこちたくて、あまたの帝におくれさせ給ふこそ、口惜しく侍れ。そのたびに、いとあはれなる御歌ども詠ませ給ひたるは、やさしくこそ侍れ。

一条院隠れさせ給ひて、

逢ふことも今はなき寝の夢ならでいつかは君をまたは見るべき

など詠ませ給へるも、いとめでたくこそ侍れ。

また、顕基あきもとの中納言の御返事かへりごに『世は二度はそむかざらまし』など侍るも、いとあはれなり。

何事よりも、優なる人多くさぶらひけむこそ、いとど心にくくめでたくおほえ侍れ」と言へば、「その御妹おとうとの枇杷殿びわの皇太

后宮と聞こえさするにこそ、いと華やかに物好みしたる人々多くさぶらひけれ。大和宣旨やまとのせんじも、その宮の女房なるべし。折々の

女房の装束、打出うちいでなども、ためしなきほどに制を破り、女房の一品経いっぴんきやう供養くやうなどしけることも、いとおびたたく侍りけれ。

女院には、さばかり名を残したる人々さぶらひけれど、さやうのことなども、人の目驚くばかりはあらじ、とつませ給ひけむほど、さまざま心の色々見えて、めでたくこそ侍れ。」

〔無名草子〕

〔注〕○皇后宮…藤原道隆の娘、定子のこと。一条天皇皇后。○上東門院…藤原道長の娘、彰子のこと。女院も同じ。一条天

皇中宮。○院…一条天皇のこと。一条院も同じ。○帝の御心地…帝は一条天皇のこと。○中関白殿…藤原道隆。

○内大臣…藤原伊周。定子の兄。○宰相の君…定子に仕える侍女。○『世は二度はそむかざらまし』…源顕基の歌に対

する彰子の返歌」ときの間も恋しきことの慰まば世は二度も背かざらまし」を指す。○その御妹の枇杷殿の皇太后宮…藤

原道長の次女で彰子の妹、妍子。三条天皇中宮。○打出…牛車や建物の簾の下から、衣の一部をわざと出すこと。出だし

衣。○一品経供養…『法華経』を一品ずつ各人が書写し、供養すること。

問一 和歌 A・B の作者は誰か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 定子

b 彰子

c 一条天皇

d 『無名草子』の作者

問二 傍線部「御目も合はず」とはどういう意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 相手を御覧になることもできず

b 正気を失われて

c お眠りにもなれず

d 涙があふれなざって

問三 傍線部2「思ひあなづりける」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 「頭中将それがし」は、定子が、身内を失って悲しみに沈んでいるはずの時であるのに、若い女房たちを集めてきらびやかに暮らしているのを軽蔑していた。

b 「頭中将それがし」は、時勢が変わってしまったので、定子の所を訪ねても、何も興味深い話を聞くことはできないだろうと、軽く見ていた。

c 「頭中将それがし」は、頼りとする父や兄を失ってしまった定子のもとには、心もとない若い女房しかいないだろうとあなどっていた。

d 「頭中将それがし」は、定子の暮らしを、一家の勢力がすっかり衰えたので、何も優雅なことはいないだろうと見下していた。

問四 傍線部3「口惜しく侍れ」とあるが、なぜか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a 彰子は、女性としての幸福を極めるあまり、命ははかなくて、その短命を何代もの天皇が悲しんだから。

b 彰子は、幸いを極めるあまり寿命が長くなく、何代もの天皇の行く末を見届けられずに、亡くなってしまったから。

c 彰子は、幸いを極めるあまり、夫まで長寿であったために、二人で後の何代もの天皇を見送らなければならなかったから。

d 彰子は、何事にもこの上ない幸いを持っていたあまりに、寿命まで長く、そのため何代もの天皇に先立たれてしまったから。

問五 波線部X「皇后宮」、Y「上東門院」について、本文中ではこの二人をどのように評価しているか。次の中から適切なものを、X、Yそれぞれにつき二つずつ選べ。

- a 天皇が亡くなるたびに、とても心打たれるような和歌を詠むなど、和歌の才能が抜きん出ている。
- b 亡くなった後も一条天皇に深い悲しみを抱かせるなど、一条天皇にこの上もなく深く愛された。
- c すばらしい人の例として、真つ先に挙げられる人で、すばらしいかどうかは議論するまでもない。
- d 逆境にもめげず、常に情趣あるさまを保ち、風流を好み気高く生きた。
- e 多くのすぐれた女房がお仕えしているのに、衣装や催し事など様々について、華美にはせず慎み深くあろうとした。
- f 他の后たちに負けず、自ら様々に趣向を凝らし、仕えている女房達にも気を配って一条天皇の時代をより立てた。

問六 二重傍線部P「わざ」、Q「野辺」の意味として、正しい組み合わせのものを次の中から一つ選べ。

- a 「わざ」…出家 「野辺」…庵いかりを結ぶ場所
- b 「わざ」…退出 「野辺」…実家に帰る道中
- c 「わざ」…葬送 「野辺」…火葬が行われる地
- d 「わざ」…門出 「野辺」…旅人を見送る所

問七 和歌Cについて、次の問に答えよ。

I 「我がみゆき」とは、「我が行幸」、すなわち、一条天皇の行幸のことを表している。この「みゆき」は掛詞になっているが、「行幸」の他に掛けられているもう一つの意味を答えよ。

II 「我がみゆき」とは言いながら、「心ひとつは通へども」と言っているのはなぜか。説明せよ。

III 「知らずやあるらむ」を現代語訳せよ。

問八 二重傍線部 R「庭草は青く茂りわたりて侍りければ」、S「なほ古りがたくいみじく」について、次の問に答えよ。

I 庭草が茂っていることに対して、定子側はどのように説明しているのか。説明せよ。

II I のように定子側が強弁したのを、『無名草子』で、「なほ古りがたくいみじく」と評価したのはなぜか。説明せよ。

問九 二重傍線部 T「夢ならでいつかは君をまたは見るべき」を現代語訳せよ。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

聊齋志異、用筆精簡、寓意^ノ処全無^シ迹相^一。蓋^シ脱^シ胎^シ於^レ諸子^一、非^レ僅^レ抗^レ手^一於^レ左史・龍門也。相^レ伝^フ、先生居^リ郷里^一、落拓無^レ偶^一、性尤^モ怪僻^一。為^レ村中童子師^一、食貧^シ自給^一、不求^レ於^レ人。作^ル此書時、每^ニ臨^ム晨^一、携^ヘ一大磁甕^一、中貯^ヘ苦茗^一、具^ヘ淡巴菰一包^一、置^ク行人大道旁^一。下^ニ陳^シ苜蓿^一、坐^シ於^レ上^一、煙茗置身畔^一。見^レ行^レ道者過^一、必強執^ヒ与^ニ語^一、搜^シ奇說異^一。隨^レ人所知^一、渴^ス則飲^レ以茗、或奉^レ以煙、必令暢談^一乃已。偶聞^ニ一事^一、歸^リ而粉飾^之。如^ク是二十余寒暑、此書方告^テ成^一。故筆法超^ナ絶^一。王阮亭聞^ニ其名^一、特訪^フ之。避^レ不見^一、三訪^ハ皆然^一。先生嘗^テ曰^ハ、此人雖^モ風雅^一、終有^ニ貴家氣^一。田夫不^レ慣^レ作^ス縁也。其高致如^シ此。

(鄒段「三借廬筆談」)

〔注〕○脱胎…ほかの作品を上手く利用して、自己の作品に生まれ変わらせる。○左史・龍門…左史は左丘明。龍門は司馬遷。どちらも歴史家として著名。○落拓…落ちぶれる。○磁甕…磁器製のかめ。○苦茗…にがい茶。○淡巴菴…タバコ。○苜蓿…苜で編んだ薄べり。○告葺…完成する。○王阮亭…清の文人、王士禛（一六三四～一七二一）。

問一 傍線部1「無偶」、2「自給」、5「粉飾」の意味として、もっとも適切なものを、それぞれ次の中から一つ選べ。

- 1 a 妻子もなく
 - b はなはだしく
 - c 孤独であり
 - d 住居もなく
- 2 a 食べ物の人からもらって
 - b 自分から給料を得て
 - c 自分の物を人に与えて
 - d みずから生活を立て
- 5 a きれいに作り変える
 - b 外面を飾り立てる
 - c ご褒美をあげる
 - d 人の目をごまかす

問二 傍線部3「随人所知」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 人の知識にうまく反応する。
- b 人に話を合わせて聞き出す。
- c 人の知るままに話をさせる。
- d 人の判断にまかせる。

問三 傍線部4「必令暢談乃已」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a かならず話すことを命じて、楽しまなければすまなかった。
- b いつも思うがままに話をさせ、そこでやっと聞きやめた。
- c たとえ話をゆつくりしても、終わりにはかならず来るものだ。
- d のびやかな対話をたのしんで、それでよしとした。

問四 傍線部4「必令暢談乃已」を書き下し文にせよ。

問五 波線部A「非僅抗手於左史・龍門也」を現代語訳せよ。

問六 波線部B「煙茗置身畔」について、そうした理由について説明せよ。

問七 波線部C「避不見、三訪皆然」について、そうした理由について説明せよ。

問八 文中の「先生」の姓名を、正しく漢字で答えよ。

